

令和3年度「山・海・島」体験活動指導者養成研修会実施報告

日時 令和3年10月18日（月） 10:00～16:00

会場 広島県立総合体育館 中会議室

参加者 小学校等教職員 21名

各市町教育委員会「山・海・島」体験活動担当者 14名



内容等

(1) 行政説明 (10:05～10:30)

- ・令和3年度の「山・海・島」体験活動ステップアップ事業について
- ・本研修会の目的等について
- ・集団宿泊活動に関するアンケートの活用について



(2) 講演 (10:30～12:00)

講師：国立教育政策研究所 教育課程調査官 安部 恭子

テーマ：小学校学習指導要領（平成29年告示）における体験活動や
集団宿泊活動の意義・役割とは



集団宿泊活動がなぜ重要なのか、答申や学習指導要領、様々な調査のデータ等の根拠をもとに、学ぶことができました。多くの学校現場を見てきた安部先生から、具体的な事例を紹介していただくことで、各自の学校でどのように生かしていけるかイメージすることができました。

集団宿泊活動の実施にあたっては、児童の実態をしっかりと把握し、目指す児童の姿を教職員が共有し、意図的な取組を計画していくことが重要であることが分かりました。また、現在はコロナ禍で、計画通りに活動を行うことができませんが、そういう状況だからこそ、もう一度その意義や目的をしっかりと考える機会とし、他の教育活動とも関連付けながら、より効果的に行う工夫が

必要だということが分かりました。

(3) 講話・演習 (13:00~15:50)

講師：県教育委員会事務局 生涯学習課 社会教育監 杉本 克之

テーマ：小学校学習指導要領（平成29年告示）が目指す「児童の姿」
に迫るための体験活動の指導について



最初に「協働」につながるアイスブレイクを行い、お互いの壁を下げながら演習がスタートしました。杉本先生が、「協働」についての考え方の例を示した後、「協働的な学び」を創り出すために必要な要件等についてグループで考えました。「傾聴」、「受容」、「合意形成」、「目的の共有」など多くの意見が各グループから出ました。

次に、その要件を生かしながら、実際に課題解決のアクティビティを体験し、体験活動の中で効果的に進めるための考え方を学んでいきました。参加者は、2つのグループに分かれ、「キーパンチ」というアクティビティを体験しました。ルールや決められたルールの中で、できるだけ短いタイムの記録を出すことが課題でした。



体験後、各グループで振り返りを行いました。綿密な作戦を立てる必要性、そのためには、「ルールの共有」、「役割の確認」、「一人一役」、「自由な発言」、「複数案の検討と試行」が大事である等の意見が出ました。その後、体験活動に関する理論的な内容の講話を杉本先生からいただきました。



最後に、今回の研修で得られた「学び」をどう活用するかを考えました。

「協働的な学び」を実現するために5年生での2泊3日の集団宿泊活動を計画するというグループワークを行いました。単純に活動プログラムを選んで組み込むのではなく、



この集団宿泊活動が終わった後の子供たちの姿を共有して、そのための目標を段階的に考え、子供へのかかわり方についても併せて検討していきました。

時間が限られていたので、全てのグループからの発表はできませんでしたが、お互いの考えを共有することで、さらに考えを深めることができました。



「山・海・島」 体験活動